



平安だより

世田谷平安教会付属平安幼稚園
2017年 11月号

「言の力」

牧師・園長 長村亮介

「初めに言ことばがあつた。言ことばは神と共にあつた。言ことばは神であつた。」 (ヨハネによる福音書一章一節)

「初めに言葉ありき」。これは聖書の言葉だ。言葉の奇跡に気がついた昔の人は、やっぱりそんなふうに言っている。「言葉は神であつた」。つまり、言葉が世界を創つたんだとね。

現代人は、考えることをしないから、こういう考え方がほとんど理解できなくなっている。世界は物質であり、目に見える世界だけを世界だと思っているんだ。ただ目に見える物より前に、目に見えない意味があるのでなければ、どうして世界が意味あるものになるのだろうか。

言葉こそが世界を創っているということを理解できなくなっている現代人は、言葉は人間の道具であつて、人間が言葉を使っているのだと思うことになる。

これは完全な勘違いだ。だって、言葉は人間が創つたのではないのだから、人間が創つたでもないものが人間の道具であるはずはない。ましてや、自分の勝手に使えるような道具であるはずがないんだ。

たぶん君も、言葉は自分が使うものだと思つていろいろ。だから、大事な人には大事な言葉を選んで使うし、憎らしい人には傷つける言葉を使つたりするわけだ。でも、君がそういう言葉を選ぶことができるといふことは、言葉が人間の心を左右する力をもつ、言葉が人間を支配することができるということを知っているからに他ならない。人間が言葉を支配しているのではなくて、言葉が人間を支配しているということだ。

『14歳の君へ どう考えどう生きるか』

池田晶子 著

著者の池田氏は哲学者で、宗教からは最も遠い方だと思います。この言葉による創造も彼女が宇宙の起源を問うところから始まっています。そのことを説明し始めると、また遡って引用しなければなりません。ひとりで申し上げれば、言葉は誰かが創つたものではなく、そもそもその言葉の意味が他の者にも共通するものとなつていなければ通じず、したがって言葉の意味は物よりも前に存在していなければならぬ。それが「初めに言葉ありき」ということなのだと思います。池田氏は存在の起源に神という答えを思いついたのが宗教なのだとも言っておられます。しかし、実は現代の自然科学は、神さまの創造された世界を探求すれば、世界を創造された神さまの言葉に行き着くはずと信じて始まったものです。ですから世界の中にいる私たちが、この世界を創造された方に行き着けるはずもなく、閉じ込められたこの世界の中で、神はいないと結論してしまっているのは不合理です。

かつての私も、神さまの存在などどうでもよいと思つていましたが、池田氏が言われるように物よりも言葉の意味の方が前に存在するのであれば、「私という人間」よりも「私」が前に存在しているのではありません。「私」という人間が生きること何の意味もなくなつてしまふのではないかと思ふようになりました。人間という存在が、限られた意味のない時間をただ生存するだけのものだとしたら、「生きる」ということはなんと無意味なことではないだろうかと思ひます。

しかし、もし神さまが「私」を創造されたのであるならば、「私という人間」が生きることには俄然、意味が出てきます。与えられた人生という限られた時間の中で、いろいろな出来事を経験し、様々な人に出会うことに意味が出てきます。それが「人間」という言葉が意味していることなのではないでしょうか。私は人間には意味があることを信じて、与えられている限られた時間を、精一杯に生きるものでありたいと思ひます。そしてまた、幼い子どもたちにも、意味のある人生を、力の限りに生きてほしいと思ひます。神さまの愛と導きを信じて。